

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(2ユニット共通/花・森ユニット)

事業所番号	2770302038		
法人名	株式会社カームネスライフ		
事業所名	ここから高宮		
所在地	大阪府寝屋川市高宮1丁目15-22		
自己評価作成日	令和5年7月10日	評価結果市町村受理日	令和5年10月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	令和5年8月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

歴史的な町並みの中に立ち周辺には田園風景が広がる環境の中、伝統的な行事にも、声掛けて頂いています。残念ながら、コロナ禍の為、町内会の行事も次々と中止となっていますが、ご近所の方と職員が挨拶などして交流を深め、災害時の協力もお互いに声を掛け合える関係を築けてます。又敷地内に畑があり、ボランティアの方のご協力もあり、四季折々の野菜の収穫をご利用者様と楽しんでます。理美容もボランティアとしてご協力して頂き、ご利用者様も顔なじみになり来られると、ご利用者様とても嬉しそうにされます。今後コロナ感染に気を付けながら推進委員会など様子みながら、行っていきます。職員もコロナ罹患しないように研修施設内で行ってます。ご利用者様にかんしては1日朝、夕、検温させて頂き体調管理させて頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業主体は、グループホームの運営に特化して大阪府下を中心に数多くの事業所を展開しており、当事業所は2005年に開設された。法人事業所で最大の敷地面積を誇り、平屋建てで2ユニットが左右対称に配置されて自由に行き来でき、広い庭にも直ぐに出られて閉塞感はない。子ども達が庭で遊び、事業所の駐車場やトイレを借し、ボランティアが畑の手入れや理美容をしてくれ、地域行事に参加したりと、地域との交流は盛んである。利用者が毎日していた散歩もコロナ禍でままならず、筋力低下を防ぐため施設内や広い庭を歩く機会を増やしている。利用者が自分でできることをしてもらい、箸と茶碗が持てるようになったり、テーブルを拭いたりアルコールで手摺りを拭いたりしている。職員の対応が良いと家族から評価されている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

【本評価結果は、2ユニット総合の外部評価結果である】

自己評価および外部評価結果 【2ユニット総合外部評価結果】

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム独自の理念を掲げ、職員全員の思いとして新入職研修の項目にも上げ、介護にあたっています。	事業所独自の理念「1. 入居者様中心の生活 2. 地域社会への貢献 3. 研究心と向上心を持つ 3. 和を尊ぶ」を玄関・各フロア入口・事務所に掲示し、周知している。利用者の入居前の生活を継続するよう支援し、地域の秋祭り参加、山車見学、神社への酒奉納、駐車場・トイレの開放など、理念に沿って実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事への参加、日常的に行っている散歩、施設内での行事への呼びかけ、日頃の世間話又施設駐車場の使用、遊び場として提供しています。新型コロナが流行の為、交流は控えています。	子ども達が庭で遊んだり、近くの田んぼのレンゲを見て事業所のトイレを借りたり、ボランティアが畑の手入れや理美容をしてくれたりしている。コロナ禍が収束すれば、再開される予定の秋のたんじり祭り、冬のとんど、夏の盆踊りに参加し、日本舞踊・紙芝居・ハンドマッサージ・音楽セラピーなどのボランティア受け入れも再開したいとしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	講習会、施設行事など、来館して頂く機会を設けて又ボランティア活動をして頂ける様呼びかけしていましたが、コロナ禍の為、今は中止してます。近隣の方が困られた時は気軽に相談、援助もさせて頂いております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2020年よりコロナ禍の為に中止してましたが、2023年6月再開しています。ご意見を頂き実践して行ける様にしていきます。	コロナ禍発生以来、会議は書面開催としていたが、本年6月から対面開催を再開している。会議には自治会長・家族(2名位)・NPO 法人会員(知見者)・地域包括支援センター職員の参加を得て、事業所の運営状況や地域との関りなどを報告している。出された意見を含めて議事録を作成し、玄関に置いて開示している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	寝屋川市のネットワーク会議、勉強会など、コロナ禍の為に中止になり、必要に応じて、電話などにて相談、情報交換を行っています。	市の高齢介護室とは事故報告や相談などで、地域包括支援センターとは空き室情報交換などで関係している。市主催のコロナ関連のサポートサービス研修に2回参加した。行政も参加するグループホーム連絡会は、コロナ禍で中止となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月に1回施設内で身体拘束について研修しています。又門扉施錠していますが、ユニット間は開放しご利用者様が庭に出られる時には見守りを行っています。発熱者がでた時にはユニット間の出入口を施錠させて頂いてます。	「身体拘束廃止に関する指針」を作成し、3か月毎に身体拘束廃止委員会と研修を同日に行って、職員に周知している。門扉は施錠しているが、玄関とユニット間は開放し、広い庭に直ぐに出られるので閉塞感はない。利用者の行動を抑制する時は対応を工夫し、スピーチロックにならないよう留意している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々の申送り、カンファレンス、3ヶ月毎に施設内研修をしています。又人により、あざなどできやすい方に関して、図などを書いて観察をしています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	コロナ渦の為研修できていませんが、ネットなどで伝達研修をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に御家族にもわかりやすく時間をかけご説明させて頂いています。又改訂時頃は推進会議や書面で説明、解約時も説明している。質問などの機会がもてる様にしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置し、御家族が訪問時には職員全員で日々対応しています。又推進会議の要望などを地域の方にも公表し、改善出来るところは反映しております。	コロナの5類感染症移行を受けて面会を緩和し、時間の制限以外は設定せず自由に面会してもらっている。面会時や電話などで把握した家族の意見は口頭で申し送りし、連絡ノートに記載して職員のサイン・印をもらって共有している。個別ケアに関する意見はあるが、運営に関することはほとんど無い。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	今年から会社全体の会議が毎週あり、月1度の職員会議で報告し職員の意見も聞ける姿勢であります。	日常や月1回の職員会議、年2回の面談などで職員の意見を聞いている。毎週の法人館長会議には管理者も参加し、職員の意見を随時反映し、会議内容を職員に報告し共有している。研修、メンテナンス、食材・おむつパッド・消耗品発注などの担当を設け、職員は分担して運営に関わっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各個人の勤務形態を把握し、長く働ける勤務状況を作る様にしています。又資格取得のアドバイスをしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍の為外部研修は出来なかったが、職員会議などで話し合い、きづきなどを共有しています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の為、以前行っていたグループ内での研修や意見交換は出来てません。		
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居前より御家族、ご本人様と面談しお話をお聞きし、ご本人様の安心を確保する関係づくりに努めてます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族、ご本人様と面談し、不安に思われている事又ご要望をお聞きし、サービスに繋げて行き関係をふかめています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	適切と思われるサービス提案又介護度、将来の予測も踏まえ説明してます。又受けて頂けるサービス内容なども提案させて頂いてます。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中掃除、洗濯、日々の会話の中でご利用者様が出来る事をして頂き、職員、ご利用者様同士助け合いができるように努めてます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の生活の中での変化、受診時の結果を面会時に電話でお伝えします。御家族を交えてご本人の思いを御家族にお伝えします。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族の了解を頂き、ご本人様が希望されている知人の方などにお電話して頂いたりしてます。以前は外出などの支援をさせて頂いてましたがコロナ禍の為、外出は控えて頂いてます。	入居時に利用者・家族から把握した馴染みの関係は、アセスメント表や個人ファイルに記録し、職員間で共有している。以前は、友人が訪れたり、馴染みの場所へ出掛けたり、墓参りや帰宅をする利用者も居たが、コロナ禍で途切れている。生け花・将棋や野球・相撲観戦の継続や、入居後の仲良しの関係継続を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	洗濯物をたたんで頂いたり 拭き掃除などお互い声を掛けあい協力しお手伝いして頂いてます。又生け花など皆様のご意見をお聞きし、交流が出来る様に支援してます。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	お問い合わせなどがあれば速やかに対応させて頂いてます。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご入居者時に御家族に情報を頂き対応させて頂いてます。又状況が変われば、その都度職員、ご本人様とお話しさせて頂き支援してます。	利用者の意向は、毎朝申し送りし、連絡ノートや介護記録に記載され職員間で共有している。意向を十分表出できない利用者が多く、家族から聞いて把握している。意向に沿って、ノンアルコールビールで毎日晩酌したり、好きな洗濯物畳みや生け花・庭歩きをするのを支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	毎日の関わりの中で、御家族ともお話を重ねて信頼関係を構築し、ご利用者様の日常を記録に残し職員全員で共有してます。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の流れの中で職員が日々傾聴し、様々な可能性を知り記録・申し送りに残しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御本人・ご家族より希望をお聞きし、計画作成者が介護計画を立て、日々の様子を記録に残し、担当職員と見直し、計画の変更もしています。	アセスメント表・評価表(1か月～6か月評価)・介護記録・支援経過記録などを基に、介護計画(案)を作成し、家族に郵送して意見をもらって追加し、完成して送付している。計画は、毎日の実施表と毎月の評価表でモニタリングし、職員会議でカンファレンスして半年毎に見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人別にケアプランに沿ったチェックリストを作成し、青字で介護記録を残し情報を反映出来るようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人・ご家族の希望、日々の関わりの中で必要なサービスは取り入れていきたいと思えます。 ボランティアの歌・園芸・等コロナ前に来ていただいた事も受け入れていきたいと思っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染防止を優先しながら、これまでのなじみの関係を継続出来るように対応しています		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医を尊重し受診時の情報提供もしています。今回コロナ感染での往診医の対応に助けられたこともあります。ご家族にご本人の現状を理解して頂く事などもあり、バランスを取り支援しています。	入居時の説明で協力医療機関をかかりつけ医とする利用者が大半だが、従前のかかりつけ医を継続する利用者も数名いる。協力医療機関の訪問診療(内科・歯科)は2週に1回で、歯科は希望者が受診している。他科の治療も医師の往診で対応できる場合がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の申し送り、記録により異変に気付く観察を行い、かかりつけ医に報告し必要な受診の対応を取っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	退院までのカンファレンスにご家族とともに参加していたが、現在面会や主治医、関係者に会うこともできず、家族への連絡を聞き、必要な情報が得られる様働きかけることで、治療の継続や施設での生活が行って頂ける様に心がけています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には説明し、病状によりご家族、主治医との面談をし、ご家族の希望を聞き必要なケアが出来るように、ケアプランに基づきカンファレンスを繰り返し、看取りも踏まえ取り組んでいます。	「重度化した場合における対応及び看取りに関する指針」にて入居時に説明し署名をもらっている。重度化した場合は医師が家族に説明し、相談して方針を決定する。終末期ケアに関する研修マニュアルもあるが、館長(看護師資格保持)の適切な指示により、職員は安心して看取りケアに取り組み、昨年3名の看取りを行った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時の対応、緊急時の対応は、日々の指導を行っていますが、コロナ禍の中の必要な観察などは行えている。救急時の対応なども再度行っていく予定です。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	必要な災害の避難計画も作成し、備蓄品を用意、自治会や近隣の方にも災害時相互の協力をお願いしています。消防訓練は年2回行い、各手順も掲示、災害時の対応もご家族様にもお伝えしています。	防火・防災マニュアルを整備し避難訓練を昨年2回(1回はビデオ研修)実施している。車椅子利用者4名も含め全員が前庭に避難する。連絡網に従い近隣の職員は早々に駆けつけると共に、事業所隣家の方との親しい関係から緊急時の協力もお願いしている。飲料水・レトルト食品・パックご飯3日分と電池・カセットコンロなど備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室は個人の部屋とし、掃除などで立ち入る時には、必ずご本人様の了解のもと入室、入浴時配慮した声掛けを行い、観察を行っています。	排泄時・入浴時とも片時も目を離せない利用者も多く、プライバシー確保が難しい状況である。排泄後の支援や入浴時の下半身の洗浄などは「今から〇〇を洗います」などの声掛けを先ずしてから動作に入るよう配慮し、利用者を大切に作る姿勢が窺われる。呼称は〇〇さんを用い、同姓の場合は家族の了解のもと名前で呼んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活のリズムを考慮し声掛け環境作りを行い、個人に合わせて行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人様希望を優先し、コロナ禍の為外出は控えていますが、施設内で出来る事は支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日ご本人様の希望どおり行っています。又化粧品などの購入を支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様と職員と一緒に準備したり食事したり、コロナ禍で出来なかった事を感染対策しながら少しでも以前のように取り組んでいます。	業者が搬入した食材を調理専門職員が作り、刻み食・ミキサー食も同時に作って提供している。利用者は座ってできる作業(お盆拭き・食卓拭きなど)を行う。月1回特別企画の食事を提供し季節を味わうと共に、食事後のゲームやカラオケなどを楽しんでいる。外出・外食ができないため庭で食べるなど工夫を凝らし、限られた環境の下で生活に彩りを添える努力をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が立てた献立と食材で調理し、摂取量、水分量など記録に残し、体重や検査結果で食事量も考慮しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後 個人に合わせたブラシ、スポンジを使用しケアを行っています。又ご希望の御家族、ご本人様には、歯科医の往診も依頼しています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンに合わせて、声掛けや職員による誘導を行っています。又汚染時は個人を尊重した取り組みも行ってます。	布パンツ使用者は数名でほとんどがリハビリパンツとパッドを使用している。トイレ誘導の声掛けは耳元で優しく静かに行い、羞恥心に配慮している。夜間は、オムツを使用する利用者2名以外はリハビリパンツとパッドを使用し、職員が2時間毎に巡回し、ベッド上でパッド交換をしている。ポータブルトイレは1名が使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操、水分、などに注意し規則的な便秘予防を行っています。介護チェック表による排泄状態の確認も行ってます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的な回数、昼間に設定していますが、ご本人の意思を尊重し入って頂いています。入浴日以外でも希望された時には、入浴して頂いています。	昨年10月から週3回午前の入浴を実施している。2人介助してでも浴槽に浸かるよう支援しているが、立位・座位の保持が難しい利用者はシャワー浴で対応することもある。入浴拒否がある場合も、別の職員の声掛けや日時の変更で対応している。柚子湯・菖蒲湯も楽しみ、入浴後化粧水を使ったり、髪の毛のブローを喜んでもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況にあわせ休息をとって頂いています。夜間に睡眠が取れるように、日中の活動を考慮しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報は各個人ファイルの中に入れ、服薬後はチェック表に記入しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活のなかで個人の得意な事の役割をもって頂き、生け花、畑仕事で気分転換がして頂ける様に支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為、外出は控えています。	庭の桜の下で花見やバラ園訪問など、特別な外出機会も増えてきたが、日常の散歩はコロナ感染の状況を見ながら行い、庭での外気浴や近隣の神社までの軽い散歩のみが実情となっている。事業所周辺の散歩も、現状では人とのすれ違いなどの感染のリスクを優先して躊躇する傾向が強い。	コロナの5類感染症移行を踏まえ、この数年の閉じこもりによるADL低下を回復すべく、また、日常生活の変化と五感刺激を求めて、従来通りの日常的な散歩をできるだけ実施することを期待する。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員と御家族の判断で本人様がもち使って頂けることもしていますが、事務所で預かる事もあります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族と相談のうえ電話は使って頂けます。又お手紙のやり取りの制限は設けていません。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分は明るい照明と、風通し良くする為まどは開けてます。コロナ禍の為、ユニット間の行き来は出来るだけ少なくしています。	共用部分には大きなソファが3つも並びゆったり座って寛ぐことができる。手摺りの消毒を利用者が毎日の仕事として熱心に行っている。換気は小窓を常に開放して行い、清掃は屋の掃除機掛けと夜のモップ掛けで対応している。利用者は概ねリビングに集まって時間を過ごすことが多く、中にはリビングから庭に出る利用者もいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにご利用者様又職員が話せる空間があり、離れた場所にも椅子など置いてます。少し離れた場所でご自由に過ごしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様のご希望に応じてタンス、椅子など置いて頂いています。荷物の制限はしてません。	居室には広いクローゼットが設えられ、衣服や靴など思い思いの物が整理されている。また当事業所のホームページには「居室には好みの家具を持ってきて下さい」と謳っており、その文言通り仏壇・筆筒・テレビ・椅子・体重計など自宅で使っていた馴染みの品を持ち込んだ暮らしが営まれている。大切な人の写真を飾っている利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯、掃除など、お一人で使って頂けます。きけんがある時には、職員が見守りを行います。		